

特集：イチモンジセセリの発生予察法の改善

成虫調査法

農業生物資源研究所 ^{ひら}平 ^い井 ^{かず}一 ^お男

平成9～12年度に実施された農水省植物防疫課の「イチモンジセセリの発生予察方法の改善に関する特殊調査事業」において埼玉、群馬、神奈川、長野、兵庫、山口、長崎県（自主参加福島県）の農業試験場や病害虫防除所、植物防疫課、農業研究センター（現中央農業総合研究センター）の担当者は当該害虫の移動実態、生活環、越冬実態等の調査研究を行い多くの成果をあげた。本稿ではその中から発生予察の基本となる成虫発生を監視する方法について報告する。

I イチモンジセセリとは

イチモンジセセリ（イネツトムシの成虫）は、農林水産省農作物有害動植物発生予察事業の調査対象害虫に指定され、都府県病害虫防除所で発生予察が実施されている。

発生は青森県で見られる年もあるが、発生統計は岩手県以南から報告されている。その発生面積は植物防疫課の統計では年次により20万ha前後を変動し、特に1994年のような暖冬年には発生量が増加する。そのほかの年でも麦跡の晩期水田や生育遅延稲に多肥した水田、直播水田、初期防除が行われなかった水田等は集中産卵され大被害になる例がしばしば観察される。

II イチモンジセセリの発生予察法の現状は

イチモンジセセリは昼間飛翔性で予察灯に誘引されない、配偶行動はもっぱら日中に行われ性フェロモンなどの誘引物質は発見されていない等で、発生予察は水田の周辺に赤クローバーや百日草などの花蜜植物（誘致花）を栽培し、吸蜜のために花蜜に飛来する成虫を定時に数え実施している（写真-1）。この誘致花の利用による発生予察は花蜜植物の栽培管理が容易でなく、風雨など悪天候時には誘致花への飛来が安定せず再現性が乏しい等の短所があった。そこで簡便な成虫捕獲法の開発が求められていた。

III 成虫は色に誘引される？

これまでの知見では、イチモンジセセリは黄色（中筋・本多，1979）、水色（田中，1988）に誘引されることが報告されている。その後、複数のカラー粘着板への飛来を観察した結果、濃青色に多く誘引されることが確認された（永野・平井，1991；小林ら，1993）。水田では発生予察の試みが黄色粘着板で行われた（高橋，1992）。

IV 水田におけるカラー粘着板への誘引性

広域水田においてカラー粘着板の色の違いによる捕獲数の差異を調査する目的で、茨城県谷和原の水田内の畦畔沿いに複数のカラー粘着板（20×20cm、厚さ2mm）を約20mずつ離して設置した。すなわち粘着板の下端をイネ葉の先端から20cmになるようにアーチ状鉄製棒から垂直に吊した。その結果、前述の濃青色（ミノルタ製分光測色計による測光では波長460nmに最高反射率約30%を有する青色）のカラー粘着板に6月から捕獲され、同波長域の反射率約40%の水色はその次、波長560nm以上に約70%の反射率を有する黄色は3番目であった。

黄色板になぜ多く集まらなかったのか？ カラー粘着板の反射光に対する成虫の色覚反応は調査していないので詳しくは分からないが、大きな違いは高橋（1992）等

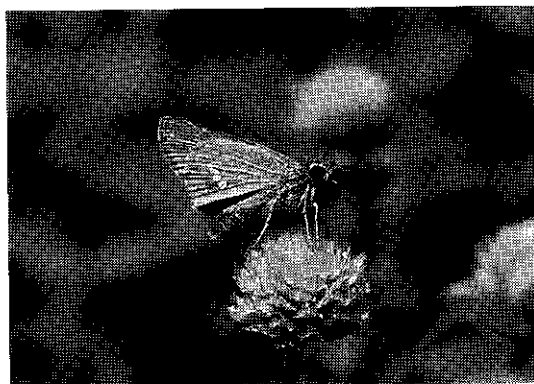


写真-1 誘致花のクローバーに訪花したイチモンジセセリ

Dark-blue, flower-scent trap for monitoring the rice skipper, *Parnara guttata*. By Kazuo HIARI

（キーワード：イネ，イチモンジセセリ，予察，成虫捕獲法）